

「広報写真のポイント」で機材の事前確認をお願いします。

2022・5・27 市町村アカデミー ①

□広報写真セミナーに参加の皆様へ□

以下の項目を事前に移動変更できるように確認してください。

使用説明書は専門用語が多く撮影に慣れないと設定が難しいと思います。広報課の先輩に聞きながら「測光モード」「フォーカスモード」「露出モード」の三種類の設定場所を確認してください。

1. 測光モード

■設定と確認：多分割測光に設定してください。

※測光モードの種類と役割

総称	ニコン系		キヤノン
「多分割測光」	マルチパターン測光		評価測光 
「中央部測光」	中央部重点測光		部分測光 
「スポット測光」	スポット測光		スポット測光 

機能説明

適正露出を測光する測光モードは、被写体に当たる光の方向で切り替えます。広報写真は、「多分割測光」と「中央部測光」の2種類を使用します。

「多分割測光」は、ファインダー全体の平均値を測光して適正露出にします。

「中央部測光」は、ファインダー内の8%を測光して適正露出にします。

「スポット測光」は、ファインダー内の2~3%を測光して適正露出にします。

設定場所

メーカーにより名称が異なります。

多分割測光（総称）は、マルチパターン測光（ニコン系）、評価測光（キヤノン系）、マルチ測光（ソニー）、分割測光（ペンタックス）、ESP測光（オリンパス）」と呼びます。

中央部測光（総称）は、中央部重点測光（ニコン・ペンタックス・パナソニック・）、部分測光（キヤノン）中央部重点平均測光（ソニー・オリンパス）と呼びます。

両方の設定ができるように確認してください。この実習では多分割測光を使用します。

※カメラの設定



2. 露出補正

■±0に設定してください。

内蔵露出計は被写体に当たる光の反射光を測光して適正露出にするため、露出計の勘違いで白や黄色の明るい色をアンダーに、黒のような暗い色をオーバーに測光します。そんなときは露出補正の「+」「-」を使って、白は白く、黒は黒くなるように適正露出に補正します。

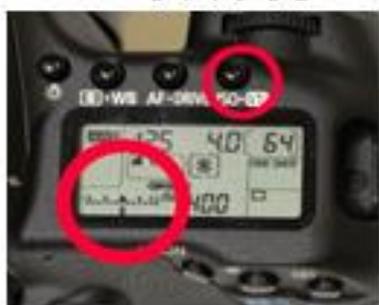
例えば、白いワイシャツの集団を撮影すると、反射率の高い白色は適正露出よりもアンダー(暗く)に測光し白い部分がグレー色になります。その場合は、測定した露出よりも明るく写るように露出補正を「+1」にすると適正露出になります。反対に反射率の低い黒い洋服の人物は、カメラが明るく撮ろうと露出オーバーに測光して黒い部分がグレー色に写るので、「-1」の補正をします。



白い範囲が多い場合は「+」補正します。 暗い範囲が多い場合は、「-」の補正します。

※カメラの設定と表示パネルの表示

『キヤノン』



『ニコン』



3. 露出モード

オート露出モードには、全自動の「P」プログラムオートと、二種類の絞り優先オート「A」（ニコン系）「Av」（キヤノン）とシャッター優先オート「S」（ニコン系）「Tv」（キヤノン）があります。

露出モードのメカニズムは、測光モードで測光した適正露出を基にどの露出モードを使っても適正露出は同じで、異なることはありません。

スナップ撮影に適した絞り優先オートは、被写界深度でピントの合う範囲を考えて絞り値を設定すると、カメラ側で自動的にシャッタースピードを適正露出になるように設定します。動きを止めて、ぶらす撮りに適したシャッター優先オートは、シャッタースピードを設定すると同じように絞り値が適正露出に設定されます。

	ニコン系	キヤノン系
プログラムオート	(P)	(P)
絞り優先オート	(A)	(Av)
シャッター優先オート	(S)	(Tv)

機能説明

この講義では、優先オートを使って行います。動きの少ないスナップ撮影は、絞り優先オートに、スポーツのように動きのある被写体はシャッター優先オートにします。

設定場所

ボディー上にある露出モードの切り替えダイヤルで、また、「MODE」（ニコン）ボタンでの変更は、MODEボタンを押してコマンドダイヤル（ニコン）電子ダイヤル（キヤノン）を回転して変更します

※露出モードの設定



キヤノン:露出モードダイヤルを回転して設定します。ほとんどがダイヤルで設定します。

ニコンの一部機種の設定
「MODE」ボタンを押してコマンドダイヤルで変更します。

『絞り優先オート』
「A」ニコン系 「Av」キヤノン系
『シャッター優先オート』
「S」ニコン系 「Tv」キヤノン系
『プログラムオート』 「P」
『マニュアル露出』 「M」 があります。



露出モードの設定

※シャッタースピードと絞り値の変更ダイヤル



■露出モードの設定と確認

□絞り値の変更と設定

露出モードを絞り値優先オート「A」(ニコン系)「Av」(キヤノン・ペンタックス)にすると絞り値が変更できます。コマンドダイヤル(ニコン系)や電子ダイヤル(キヤノン)で、絞り値を「F11」と「F5.6」に変更できるように確認してください。

□シャッタースピードの変更と設定

露出モードをシャッター優先オート「S」(ニコン系)「Tv」(キヤノン・ペンタックス)にするとシャッタースピードが変更できます。コマンドダイヤル(ニコン系)や電子ダイヤル(キヤノン系)で、シャッタースピードを「1/30 秒」と「1/250 秒」に変更できるように確認してください。

4-①. オートフォーカスモード (AF)

■シングルオートフォーカス「AF-S」(ニコン系)「ONE SHOT」(キヤノン)の、
シングルオートフォーカスに設定してください。

オートフォーカスでピントの合わせ方は、被写体の動きに応じてピントを合わす、2種類の「オートフォーカスモード」と、ファインダー内に幾つものピントを合わすフォーカスフレーム(ポイント)がありますが、ピントを合わすエリア(範囲)を選択する「エリアフォーカスモード」を組み合わせるピント合わせをします。

※フォーカスモードの種類

	ニコン系	キヤノン系
□フォーカスモードの設定		
シングルオートフォーカス	AF-S	ONE SHOT
コンティニユアスオートフォーカス	AF-C	AI SERVO

機能説明 被写体の動きによってピントの合わせ方を変更する機能です。

*シングルオートフォーカスの「AF-S」(ニコン他)「ONE SHOT」(キヤノンのみ)は、動きの少ないスナップ撮影に適したオートフォーカスモードです。ピントが合うとピントが固定されるフォーカスロック機能があります。
露出モードの絞り優先オート「A」「Av」と組み合わせます。

*コンティニユアスオートフォーカスの「AF-C」(ニコン系)「AI SERVO」(キヤノンのみの名称)は、動きのある被写体に適したフォーカスモードで、シャッターを押すまでピントを合わせ続けて、フォーカスロックされません。
露出モードをシャッター優先オート「S」「Tv」と組み合わせます。

キヤノン



ニコン



シングルオートフォーカス 「AF-S」(ニコン系)「ONE SHOT」(キヤノン)
コンティニユアスオートフォーカス 「AF-C」(ニコン系)「AI SERVO」(キヤノン)

キヤノンは、表示パネルの近くにあるAFボタンを押してメイン電子ダイヤルで設定します。
ニコンは、オートフォーカスモードボタンを押して表示パネル上でメインコマンドダイヤルを回転して設定します。

4-②. エリア AF モードの設定 (AF=オートフォーカス)

■シングルエリア AF モード(ニコン)と1点 AF(キヤノン)に設定できるようにしてく

ださい。

ファインダーの中には、ピントを合わす幾つものフォーカスフレームがありますが、「AFフレームの選択」(キヤノン)、「AFエリアモード」(ニコン)によって、1点と複数のフレームでピントを合わす設定ができます。

スナップ撮影はシャープなピントを得るために、1点でピントを合わすシングルエリアAFモード「

複数のフォーカスフレームを使うエリアAFモードには、スポーツのように速い上に不規則な動きをする被写体に適した、ダイナミック AF・9点「

使い方は、シングルエリアAFのようにフォーカスフレームの1点を選びますが、一時的に被写体がフォーカスフレームから外れても、上下左右のフォーカスフレームが引き続きピントを合わせ続けます。

フォーカスモードはコンティニュアンスオートフォーカスに設定します。

※エリアフォーカスモードのカメラの設定方法

(ニコン)



- ①フォーカスモード
シングルポイントAFモード 
- ②ダイナミックAFモード
9点・25点・72点153点 
- ③オートエリアAFモード 
- ④3D-トラッキング(11点) 

手順



【i】ボタンを押します。

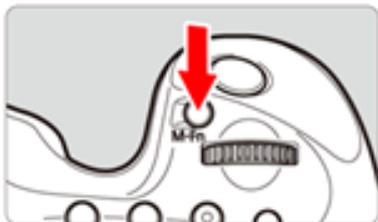
02. マルチセレクターで[AFエリアモード]を選んでOKボタンを押します。



03. 設定したいAFエリアモードを選びます。OKボタンを押して設定します。



(キヤノン)



ファインダーをのぞきながら
【 M-Fn 】 ボタンを押します。
ボタンを押すたびに測距エ
リア選択モードが切り換わり
ます。



【  】 ボタンを押すと
ファインダー内のフレー
ムは赤く表示されます。
カメラの液晶画面には
【 AFフレーム選択 】
画面が表示されます。

-  ①AFシングルオートフォーカスモード
-  ②一時的にフォーカスフレームから被写体が外れても上下左右のフォーカスフレームが引き続きピントを合わせ続けます。
-  ③1点でピントを合わせますが、一時的にフォーカスフレームから被写体が外れても、上下左右フォーカスフレームが引き続きピントを合わせ続けます。
-  ④ゾーンAF9の範囲に分けてピントをあわせま
-  す。
-  ⑤ 61点全体を自動選択

□その他の設定

5. ISO感度の設定と変更

ストロボの天井バウンスが最初の撮影実習になります。「ISO400」に設定してください。



ISOボタンを押してコマンドダイヤル(ニコン)・電子ダイヤル(キヤノン)で設定します。

6. 画像モードと画質モード

画質モードは画像を保存するファイル形式で、画像の圧縮率を決めるものです。
画像サイズは、記録する画像の大きさを決めるものです。
最終媒体が印刷では、「JPEG」で画質モードを「FINE」(ニコン)「**L**」(キヤノン)に、
画像サイズは繊細な画像を作るように「**L**」にします。

7. 作動モードの設定

シャッターチャンスを見逃さないように連続撮影「**CH**」あるいは「**CL**」(ニコン)に
設定します。

キヤノン



ニコン



8. ストロボについての注意点

デジタルカメラのストロボは、デジタル専用でカメラと同メーカーでないとは正常に作動しません。

また、ニコンは、デジタル専用ストロボでもカメラによって正常に作動しない機種があります。

■撮影実習で毎回、少数ですがストロボが発光しないケースがあります。

ストロボの使い方を理解することで人物を自然に撮影できます。

広報室で下記の手順で人物をテスト撮影してください。

ストロボの発光モードは、「A」「M」「TTL」があります。ストロボ設定は、「TTL」(一般的)「i-TTL」(ニコン)、「e-TTL」(キヤノン)に設定してください。

ストロボをカメラに取り付けてカメラの設定は、ISO 感度を 400 に、露出モードを絞り優先オート「A」「Av」にして絞り値を「F8」にします。

人物から2m離れてストロボの発行部を人物に向けて、ウエストアップで撮影します。

画像が真っ白や暗くなるようでしたら、ストロボをカメラから取り外してもう一度しっかりと取り付けて撮影してください。

それでも変わらない場合は他のストロボでテスト撮影してください。

それでもだめなら当日に確認します。

※セミナー当日は、《A設定》にしてください。

□被写体による撮影モードの組み合わせです。

	測光モード	+	露出モード	+	フォーカスモード
《A設定》	スナップ撮影に適した組み合わせ				
ニコン系	マルチパターン測光		(A)		AF-S
キヤノン系	評価測光		(Av)		ONE SHOT
《B設定》	動きのある撮影に適した組み合わせ				
ニコン系	マルチパターン測光		(S)		AF-C
キヤノン系	評価測光		(Tv)		AI SERVO
《C設定》	薄暗い場所で手振れを起こす恐れがあるスナップ撮影				
ニコン系	マルチパターン測光		(S)		AF-S
キヤノン系	評価測光		(Tv)		ONE SHOT

※撮影実習の室内はA・Cを、野外はA・Bを使います。変更ができるようにして下さい。

□撮影実習の機材について

※カメラとレンズ

日頃使用しているカメラをお持ち下さい。

レンズは18～70mm以上200mmがベストです。標準ズーム24・28～70mmでも問題ありません。

18～55mmと70～200mm以上の2本を使用している場合は、2本持ってきてください。

1本しか持参できない場合は、18(28)～55mmを持ってきてください。

※外付けのストロボをお持ちください。

ストロボ撮影は、撮り方により背景に人物と同じ影が出て見苦しい写真になります。天井バウンスの撮り方をマスターします。そのため、発光部が左右上下に回転するストロボを用意してください。電池の予備を準備してください。

※コンパクトフラッシュ:250～300カット程度撮影できるものを準備してください。

※カメラのバッテリー:実習ではモニターチェックが多くなります。フル充電して予備のバッテリーがあれば持参してください。

講義終了後、広報写真クリニックを行います。

希望される方は、ご自分が撮影した広報紙をお持ちください。